平成６年10月27日

五　十　肩

症例報告

木下典穂

症　例　ＭＡ　52歳　女　主婦
初　診　平成６年７月30日
主　訴　左肩関節部が痛い

現病歴　昨年の３月に右肩関節部が痛くなり、整形外科で五十肩といわれ、１年以上通院し、症状は完全緩解した。

今回は２カ月ほど前から左肩関節部が痛み出す。痛みは徐々に強くなり痛み始めからなんとなく感じていた左肩関節部の動きの悪さもしだいに明瞭となってきた。治療は何もしていない。

現在、左肩関節部が痛く、自発痛、夜間痛がある。左肩甲上部や上腕に痛みがひびく。痛みのために左上肢が上がりにくい。物を持ち上げようとすると左肩関節前面が強く痛む。結帯障害、結髪障害がある。頚の運動による愁訴の増悪はない。スポーツはしていない。アルコールはのまない。

既往歴　胃潰瘍（26歳）
　　大腸癌手術（48歳）
家族歴　特記すべきものなし

診察所見　左肩関節の発赤、腫脹、熱感は認められない。三角筋の萎縮は認められない。外旋障害は陽性。ヤーガソン・テストは陽性。スピード・テストは陰性。有痛弧症候は検査不能。外転障害は陽性で自動、他動ともに90度。棘上筋および棘下筋の萎縮は認められない。拘縮テストは陰性。結髪障害は陽性。結帯障害は陽性で大椎母指間距離は左55cm、右17cm。圧痛は患側の前隙、間溝、結節、肩外兪に検出された（表１）。

要　約　本症例は持ち上げ痛があり、ヤーガソン・テスト、外旋障害、外転障害、結髪障害、結帯障害が陽性で、圧痛が前隙、間溝、結節、肩外兪に検出されるところから、上腕二頭筋長頭腱腱鞘炎の炎症が周囲組織に波及した五十肩が推測される。拘縮テスト陰性所見から疼痛期にあるものと思われる。

対　応　力こぶのできる筋肉のスジは肩の前面を通っています。はじめにこのスジに炎症が起こり、その炎症が肩の関節にまで及んでいるのです。炎症は静かにしていると良くなりますので安静を心がけてください。鍼灸は痛みや炎症を取り除くのに効果があります。

治療・経過　疼痛の軽減と血行改善を目的に以下の治療を行った。

第１回　右下側臥位で枕を抱いた姿勢をとり、患側の巨骨、前隙、間溝、結節、肩貞、肩井、肩外兪を選穴し（図１）、ステンレス鍼の１寸６分－３号（50mm－20号）を用いて15分間の置鍼。刺入深度は約1,5cm 。

第２回（７日目）　フライパンなど持っていると落としそうになる。肩甲上部の痛みは前回の治療で軽減する。

第５回（18日目）　自発痛、夜間痛は軽減する。外転80度、大椎母指間距離は左55cm、右18cm。

第９回（38日目）　外転75度、大椎母指間距離は左８＋55cm、右20cm。拘縮テスト陽性。

第11回（45日目）　自発痛、夜間痛は消失。左肩甲部から腋窩にかけて上肢挙上時に痛む。肩関節前面も痛む。左天宗に圧痛が検出されたので治療点に加える（図１）。無理に痛みを我慢しない程度に、軽く肩や腕を動かすよう指示する。

第12回（49日目）　外転70度、大椎母指間距離は左７＋50cm、右17cm。

第15回（76日目）　外転75度、大椎母指間距離は左５＋52cm、右17cm。持ち上げ痛は消失し、フライパンは楽に持てる。ヤーガソン・テスト陽性。

第17回（87日目）　外転80度、大椎母指間距離は左２＋52cm、右18cm。外旋障害陽性。結髪障害陽性。拘縮テスト陽性。左肩甲部から腋窩にかけての痛みは消失。肩関節前面から外側が上肢挙上時に痛む。特に前面の痛みが強い。本症例は現在も治療継続中である。

考　察　本症例は年齢、症状、陽性所見、圧痛点から、上腕二頭筋長頭腱腱鞘炎が周囲組織に波及して発症した五十肩が推測される[1,2]。45日目に出現した左肩甲部から腋窩にかけての痛みは肩甲上神経障害の関与を考えさせられなくもないが、自発痛はなく、棘上筋や棘下筋の萎縮は認められず、肩甲切痕部に圧痛も検出されないので、可能性は低いと思われる[3,4]。

経過をみると、自発痛、夜間痛は18日目には軽減し、45日目には消失しているが、38日目に拘縮テストが陽性となり、疼痛期から拘縮期への移行を示している。外転角度は初診時90度が49日目に70度、大椎母指間距離は同じく55cmが38日目には８＋55cmと最も悪い数値となっており、おそらくこの時期が拘縮期のピークと想像される。

本症例は現在もヤーガソン・テスト、外旋障害、外転障害、結髪障害、結帯障害、拘縮テストが陽性で、肩関節前面を主とした運動痛が存在しており、際立った治療効果をあげているとはいいがたいが、持ち上げ痛は消失し、外転角度や大椎母指間距離もわずかずつではあるが良化のきざしをみせている。今後とも長期にわたる治療を続けていけば、症状は改善の方向へ進むものと考えている。

経穴の位置

前隙　烏口突起・上腕骨頭間の圧痛点

間溝　上腕骨結節間溝部の圧痛点

結節　大結節部の圧痛点

参　考　文　献

1）安達長夫：五十肩の病態について、「五十肩」Ｐ９～14、金原出版、1983。

2）三笠元彦：五十肩の治療成績、「五十肩」Ｐ90～95、金原出版、1983。

3）井上義夫：五十肩と肩甲上神経について、「五十肩」Ｐ58～68、金原出版、1983。

4）出端昭男：鑑別診断、「診察法と治療法　５　五十肩」Ｐ59、医道の日本社、1992。

表１　診察所見

五十肩　　6 年 7 月 30 日

1 発赤	左 ― 右	12 棘上筋	左 ― 右	17 圧痛	
2 腫脹	左 ― 右	13 棘下筋	左 ― 右	烏口	
3 三角筋	左 ― 右	14 拘縮	左 ― 右	前隙	
4 熱感	左 ― 右	15 結髪	左 十 右	間溝	
5 外旋	左 十 右	16 結帯	左 － ⊕ 55	結節	
6 ヤーガソン	左 十 右		右 ⊖ ＋ 17	肩貞	
7 スピード	左 ― 右			天宗	
9 有痛弧	左 不 右			肩外俞	
10 外転	左 －(⊕)90 右 － ＋				
8 ストレッチ		11 落下			

（医道の日本社）

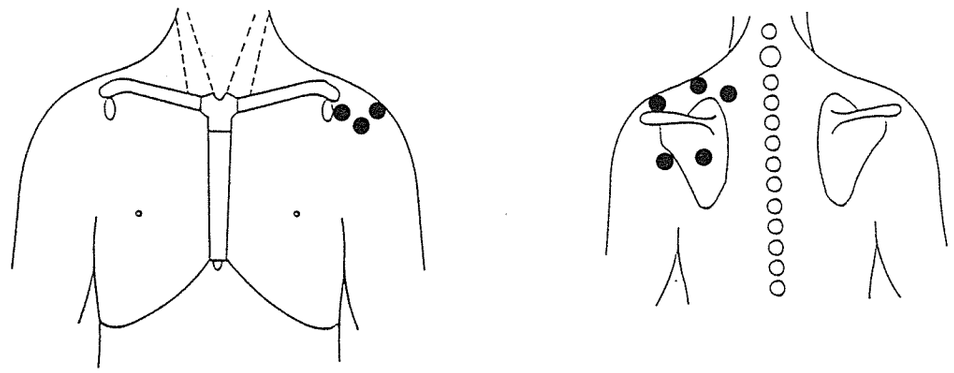

図１　治療点